

白川改修・立野ダム建設促進期成会
会長 熊本市長 幸山政史 様
菊陽町長 後藤三雄 様
大津町長 家入 勲 様
南阿蘇村長 長野敏也 様
熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 平野みどり
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム促進陳情への抗議文

5月20日の貴期成会総会で、立野ダム建設の促進を国土交通省に要望することを確認されたことに対し、私たちは5月30日「白川の安全を守るために立野ダムより河川改修を進めることを求める要望書」を、熊本市役所を訪れ提出しました。

その後、貴期成会は8月22日、東京において国土交通省に対し、昨年夏の豪雨災害で浸水被害を受けた白川中流域の治水対策を求める要望書を提出されました。みらい大橋より上流の大津町と菊陽町の白川中流域では河川整備計画が策定されておらず、昨年夏の様な豪雨災害があれば再びあふれてしまうことは明白であり、私達も国土交通省や熊本県に対し白川中流域の河川整備計画策定を何度も要望してきたところです。流域住民の生命財産を守るための要望に深く敬意を表します。

ところが同時に、貴期成会は立野ダム本体工事の早期着工を要望されました。国土交通省は昨年9月、熊本県と流域市町村に対し「白川の治水には立野ダム建設が最も有利である」との独自の検証結果を提示しました。これに対し、白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で公聴会が開かれました。3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダム建設に反対や疑問の意見を述べたにもかかわらず、貴職らは国の姿勢に追随し、昨年12月には国土交通大臣が立野ダムの事業継続を決定しました。国は住民に対し、立野ダムについての説明責任を果たしているとはとても言えません。貴期成会が流域住民の声を無視し、立野ダム本体工事の早期着工を同省に要望されたことに対し、強く抗議します。

立野ダム計画が多くの問題を抱えている点は、これまで何度も提出しました要望書等で述べた通りです。立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に計画された、高さ90mの洪水調節専用の穴あきダムです。カルデラの切れ目にダムをつくるのは、専門家でなくとも危険を感じます。立野ダム予定地周辺は阿蘇火山から流下してきた立野溶岩で、一帯には多くの断層が集中しており、地すべりや地盤沈下、漏水、地震など思わぬ災害も想定されます。

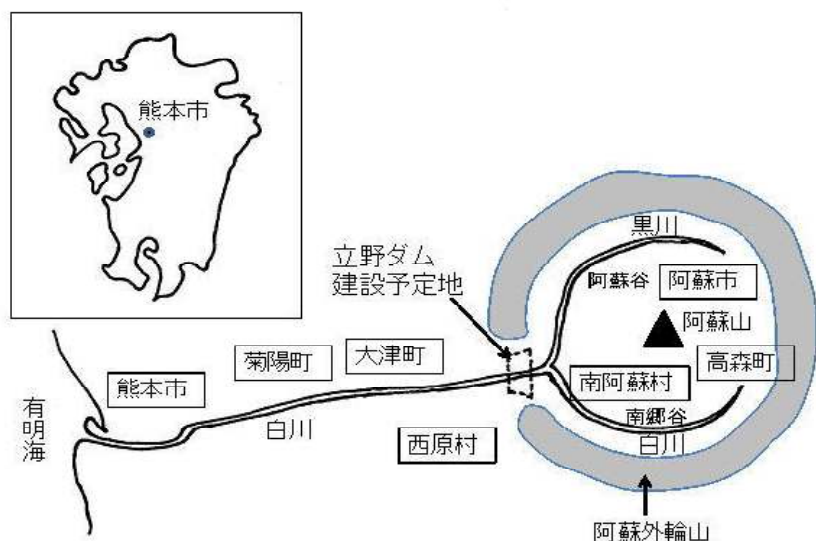
洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても土砂や岩石、火山灰等で埋まってしまうことは明らかなです。想定以上の洪水時や、流木等でダムの「穴」がふさがった場合、立野ダム湖は満水になり洪水調節不能の危険な状態となります。また、立野ダム建設予定地は現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区にあり、国の天然記念物である北向谷原始林の一部も水没します。

河川改修を進め、阿蘇の草原を保全し、荒れた人工林を間伐し、流域の農地を守ることが、白川流域の災害対策や熊本の地下水の保全にもつながります。私たちは、立野ダム本体工事の早期着工を要望されたことに強く抗議するとともに、なぜ立野ダム促進なのか、住民に対し説明責任を果たされることを要請します。

以上

【参考資料】立野ダム問題について

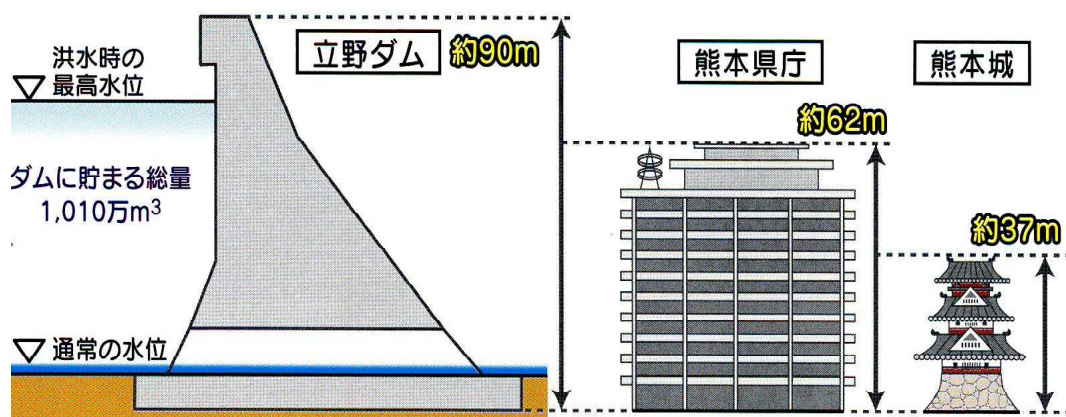
立野ダムは阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に国土交通省が計画した、高さ 90 mの洪水調節専用の穴あきダムです。1983 年に事業が開始され、取り付け道路などの工事は進みましたが、ダム本体工事には着手されていません。



立野ダム建設予定地と
白川、阿蘇カルデラの位置



立野ダム完成予想図
(国土交通省資料より)

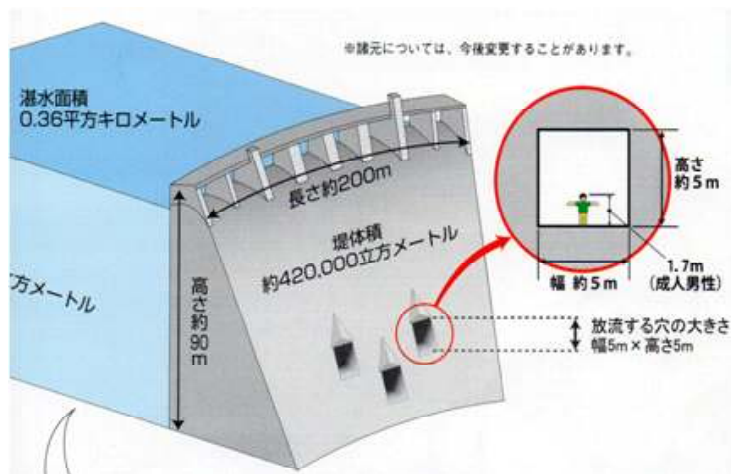


立野ダムの高さ
(国土交通省資料より)

●洪水時、立野ダムは機能しません

球磨川の荒瀬ダムは、洪水時に流木などを引っかかりにくくするために、建設工事中に水門（ゲート）の間隔を当初の 10m から 15m に広げています。洪水調節専用の「穴あきダム」である立野ダムにはゲートがない代わりに、ダムの下部に一辺が 5 m の 3 つの「穴」があいています。洪水時、この穴が流木等でふさがると、立野ダムはたちまち洪水調節不能の危険な状態となります。

国土交通省は流木対策として、立野ダムの上流にスリットダムを作るとしています。しかし、大量の流木がひっきりなしに流れる洪水時の白川の状況を考えると、そのようなものはたちまち流木等でふさがってしまうと容易に想像できます。洪水時、立野ダムは機能しないどころか、大きな災害源となります。



立野ダムの下部には 5m × 5m（長さ約 80m）の 3 つの穴が開いている



洪水時の流木でふさがった下井手取水堰（大津町）
立野ダムの「穴」もこのようにふさがってしまうことが
容易に想定できる 2012年7月15日撮影

●立野ダムの地質と堆砂の問題

カルデラの切れ目にダムをつくるのは、専門家でなくとも危険を感じます。立野ダム予定地周辺は阿蘇火山から流下してきた立野溶岩で、一帯には布田川日奈久活断層をはじめ、多くの断層が集中しており、地盤沈下や漏水、地震など思わぬ災害も想定されます。

洪水時の白川の水は多くの火山灰を含みます。白川にダムを造っても土砂や岩石、火山灰等で埋まってしまうことは明らかです。想定以上の洪水時や、流木等でダムの「穴」がふさがった場合、立野ダム湖は満水になり洪水調節不能の危険な状態となります。



立野ダム本体建設予定地を下流から見た写真
V字谷の奥は北向谷原始林



角材状の割れ目（柱状節理）が多く見られる
立野ダム予定地の岩盤（右岸側）

●立野ダムは阿蘇の大自然を破壊します

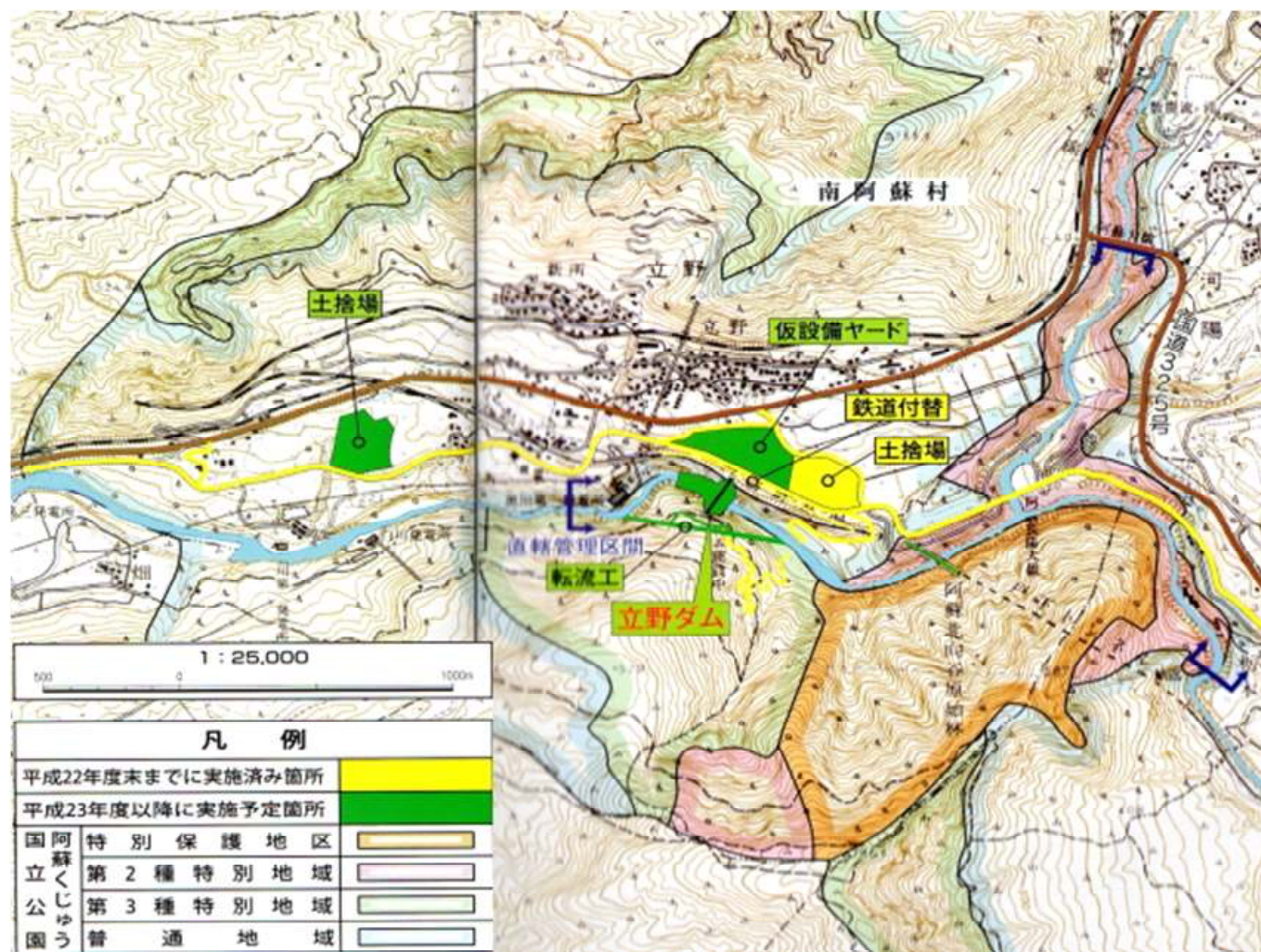
立野ダム建設予定地は、現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区にあり、国の天然記念物である北向谷原始林の一部も水没します。世界文化遺産登録や世界ジオパーク認定をめざす阿蘇にとって致命的なダメージとなるのは明らかです。

穴あきダムは「普段は水を貯めず、水没するのは洪水調節をする短い時間であるので、環境に与える影響は小さい」と国土交通省は主張しています。しかし、洪水時のダム湖の水は濁水であるために、水位が下がった後も植物や地面に泥や火山灰が付着し、植生は枯れてしまいます。ダム完成時には「試験湛水」が行われ、その時は半年間水没するので、北向谷原始林も水没部分の植生は完全に枯れてしまいます。

高さ 90 m、幅 200m ものコンクリートの巨大構造物は、周辺の植生や生物の生息環境を破壊します。立野ダム事業区域ではクマタカをはじめ、国や県が保護すべきと定めている重要種 174 種の動植物が生息し、ダム工事の影響で 42 種もの生息地域や個体自体が消失するか、その恐れがあることが国土交通省の調査で分かっています。にもかかわらず、環境アセスメントすら実施されていません。

また国土交通省は「立野ダムには土砂はたまらない」と主張しています。しかし、洪水時の白川の水は大量の火山灰を含みます。洪水時にこれらの火山灰や土砂、岩石、流木などが、ダム下部に設置される 3 つの穴（一辺 5 m の正方形のトンネル）を通りぬけ、ダムにたまらないなどということはありません。

立野ダムは、洪水が終わった後も穴あきダムであるために、たまった土砂が露出し、今度はたまった土砂が流れ出し、長期間下流の白川を濁します。さらには、有明海の環境や漁業へも大きなダメージを与えることが懸念されます。



立野ダム周辺の自然公園法に係る法的規制区分図(国土交通省資料より)

4. 立野ダム建設事業の進捗状況①



立野ダム本体予定地の位置と水没予定地(青く塗りつぶしてある部分)

(「立野ダム建設事業等の点検について」 平成23年1月24日 国土交通省九州地方整備局)

●立野ダム事業検証は不当です

2012年9月11日、国土交通省は熊本県と流域市町村に対し「白川の治水には立野ダム建設が最も有利である」との独自の検証結果を提示しました。これに対し、白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で公聴会が開かれました。3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダムに反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。

にもかかわらず、流域の首長や県知事は国の姿勢に追随し、熊本市議会と熊本県議会は立野ダム建設推進の意見書を可決。12月には国土交通大臣が立野ダムの事業継続を決定してしまいました。

民主党政権(当時)の打ち出した脱ダム方針を受け、建設の是非を検証するために始まった「立野ダム事業検証」ですが、事業者が自らの事業を自らの手で検証することには無理がありました。国土交通省が選んだ学識者や有識者が、国土交通省の意見に異議を唱えることもあり得ません。これでは客観的な「検証」とはとても言えません。また、国は住民に対し、立野ダムについての説明責任を果たしているとはとても言えません。

同じ2012年10月、熊本県は大規模な白川の河川改修計画を発表しました。この計画が実現すれば、白川の安全度は格段に高まります。災害をひきおこす立野ダムにたよるのではなく、即効性のある河川改修こそを進めていくべきです。さらには、阿蘇の草原を保全し、荒れた人工林を間伐し、流域の農地を守ることが、白川流域の災害対策や熊本の地下水の保全にもつながります。